

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	関西ペイント株式会社 CTセンター	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県豊田市花本町井前1番21	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年7月 予定	評価の実施日	2025年6月18日
敷地面積	18,433 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社GUIS 古澤
建築面積	2,862 m <sup>2</sup>	確認日	2025年6月20日
延床面積	8,811 m <sup>2</sup>	確認者	北川 幸尚



<b>2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&amp;チャート)</b>	<b>2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)</b>	<b>2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)</b>
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 84%</p> <p>③上記+②以外の 84%</p> <p>④上記+ 84%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

<b>2-4 中項目の評価 (バーチャート)</b>		
Q 環境品質 <b>Qのスコア = 2.9</b>		
<b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.2 	<b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.0 	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> Q3のスコア = 2.2 
LR 環境負荷低減性 <b>LRのスコア = 3.2</b>		
<b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.6 	<b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 2.9 	<b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 2.9 

<b>3 重点項目</b>	
<b>①地球温暖化への配慮</b> 3.6 	<b>③敷地内の緑化</b> 1.0 外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 23.9 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
<b>②資源の有効活用</b> 2.9 	<b>④地域材の活用</b> 1.0 <外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
- LR-2.2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 関西ペイント株式会社 CTセンター

欄に数値またはコメントを記入 ■使用評価マニュアル: ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>						0.40	-	-	
<b>1.1 室内騒音レベル</b>						0.15	-	-	3.4
1.1 室内騒音レベル					3.0	3.0	0.40	3.0	-
<b>1.2 遮音</b>						0.40	-	-	
1.2 遮音					0.4	4.2	0.40	-	-
1 開口部遮音性能				アルミニウムサッシ遮音性能T-2相当		5.0	0.60	3.0	-
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-
<b>1.3 吸音</b>						0.20	-	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-
<b>2 温熱環境</b>						0.35	-	-	3.0
<b>2.1 室温制御</b>						0.50	-	-	
2.1 室温						0.5	3.0	0.50	-
1 室温						3.0	3.0	0.38	3.0
2 外皮性能						3.0	3.0	0.25	3.0
3 ゾーン別制御性						3.0	3.0	0.38	-
<b>2.2 湿度制御</b>						0.20	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	3.0	0.20	3.0
<b>2.3 空調方式</b>						0.30	-	-	
2.3 空調方式						3.0	3.0	0.30	3.0
<b>3 光・視環境</b>						0.25	-	-	3.0
<b>3.1 昼光利用</b>						0.30	-	-	
3.1 昼光利用						0.2	3.0	0.25	-
1 昼光率						0.3	3.0	0.30	-
2 方位別開口						3.0	3.0	0.60	3.0
3 昼光利用設備						3.0	3.0	0.40	3.0
<b>3.2 グレア対策</b>						0.30	-	-	
3.2 グレア対策						0.3	3.0	0.30	-
1 昼光制御						5.0	3.0	1.00	3.0
<b>3.3 照度</b>						0.15	-	-	
3.3 照度						3.0	3.0	0.15	3.0
<b>3.4 照明制御</b>						0.25	-	-	
3.4 照明制御						3.0	3.0	0.25	3.0
<b>4 空気質環境</b>						0.25	-	-	3.7
<b>4.1 発生源対策</b>						0.50	-	-	
4.1 発生源対策						0.2	3.7	0.25	-
1 化学汚染物質				全てF☆☆☆☆建材を採用		0.6	4.0	0.50	-
2 換気						3.0	4.0	1.00	3.0
1 換気量						0.3	3.0	0.30	-
2 自然換気性能						3.0	3.0	0.33	3.0
3 取り入れ外気への配慮						3.0	3.0	0.33	3.0
<b>4.3 運用管理</b>						0.20	-	-	
4.3 運用管理						0.2	4.0	0.20	-
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	3.0	0.50	-
2 喫煙の制御				全館禁煙		3.0	5.0	0.50	-
<b>Q2 サービス性能</b>						0.30	-	-	3.0
<b>1 機能性</b>						0.40	-	-	3.0
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>						0.40	-	-	
1.1 機能性・使いやすさ						0.4	3.0	0.40	-
1 広さ・収納性						3.0	3.0	0.33	3.0
2 高度情報通信設備対応						3.0	3.0	0.33	3.0
3 バリアフリー計画				独自		3.0	3.0	0.33	-
<b>1.2 心理性・快適性</b>						0.30	-	-	
1.2 心理性・快適性						0.3	3.0	0.30	-
1 広さ感・景観 (天井高)				階高平均3m以上		3.0	5.0	0.33	3.0
2 リフレッシュスペース						3.0	3.0	0.33	-
3 内装計画						3.0	1.0	0.33	-
<b>1.3 維持管理</b>						0.30	-	-	
1.3 維持管理						0.3	3.0	0.30	-
1 維持管理に配慮した設計						3.0	3.0	0.50	-
2 維持管理用機能の確保						3.0	3.0	0.50	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>						0.31	-	-	2.9
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>						0.48	-	-	
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.3	2.9	0.31	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						0.4	3.0	0.48	-
2 免震・制震・制振性能						3.0	3.0	0.80	-
3.0						3.0	3.0	0.20	-
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>						0.33	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.0	0.33	-
1 躯体材料の耐用年数				②			3.0	0.23	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							3.0	0.23	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							3.0	0.09	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				一部ステンレスダクト使用			4.0	0.08	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							3.0	0.15	-
6 主要設備機器の更新必要間隔							3.0	0.23	-
<b>2.4 信頼性</b>						0.19	-	-	
2.4 信頼性						0.1	2.6	0.19	-
1 空調・換気設備				②			3.0	0.20	-
2 給排水・衛生設備							3.0	0.20	-
3 電気設備							3.0	0.20	-
4 機械・配管支持方法							3.0	0.20	-
5 通信・情報設備							3.0	0.20	-

<b>3 対応性・更新性</b>			0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40		-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-				3.2
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40			3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.67	3.0	5.0	0.30		5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20		3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.78	3.0	3.2	0.30		3.2
<b>4 効率的運用</b>					0.2	3.0	0.20		3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		
集合住宅の評価					-	-	-		
4.1 モニタリング					-	3.0	-		
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30			2.9
<b>1 水資源保護</b>					0.1	3.0	0.15		3.0
1.1 節水					3.0	3.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>					0.6	2.8	0.63		2.8
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.21		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		3.0	1.0	0.21		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	天井の下地にLGSを採用している。	3.0	4.0	0.25		
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>					0.2	3.3	0.22		3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.5	0.68		
1 消火剤					-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)						4.0	0.50		
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		
グラスウール・吹付ウレタンフォームA種1Hを採用。									
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30			2.9
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			①	ライフサイクルCO2排出率84%	-	3.6	0.33		3.6
<b>2 地域環境への配慮</b>					0.3	2.3	0.33		2.3
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.5	0.25		
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25		
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		
<b>3 周辺環境への配慮</b>					0.3	3.0	0.33		3.0
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>					0.4	3.0	0.40		
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		
2 振動			独自		-	-	-		
3 悪臭					-	-	-		
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>					0.4	3.0	0.40		
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		
2 砂塵の抑制					-	3.0	-		
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30		
<b>3.3 光害の抑制</b>					0.2	3.0	0.20		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70		
2 透光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		

## 重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

関西ペイント株式会社 CTセンター

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:23.9%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

## ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 関西ペイント株式会社 CTセンター

計画上の配慮事項	
総合	敷地境界周辺に緑地を確保し、周辺環境に配慮している。
Q1 室内環境	ほぼ全面にF☆☆☆☆建材を使用している。
Q2 サービス性能	階高・天井高共にゆとりのある空間とし設計している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地計画を行っている。防犯カメラの設置により防犯性に配慮した。
LR1 エネルギー	LED照明を採用し省エネ性能の向上に努めている(BEI=0.78)
LR2 資源・マテリアル	節水型便器を採用している。
LR3 敷地外環境	広告照明計画なし。
その他	